

令和7年度シラバス（国語）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年（系）	4学年
使用教科書	東京書籍「精選 言語文化」				
副教材等	・東京書籍「精選言語文化 学習課題ノート」・尚文出版「入試対策ベストセクション古文単語 325」 ・第一学習社「完全マスター古典文法」・第一学習社「完全マスター古典文法準拠ノート」 ・数研出版「体系漢文」・尚文出版「基礎古典」				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

本校においては大学等に進学を希望する生徒が大多数であることを踏まえ、

- ①古典に親しみ、基本的な文法事項を身につけて正しく読解した上で、表現の特色や作品に込められたものの考え方を理解する力を育てます。
- ②小説や随想を読んで、登場人物の心情の変化や人間関係の在り方について考え、作品を解釈する力を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	古文編 古文入門	読む 6時間	児のそら寝	歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。	3	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
			絵仏師良秀	文語の活用について理解し、叙述を基に人物像を読み取る。	3	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
5		読む 2時間	大江山の歌	文語のきまりに注意しながら、登場人物の言動と和歌の内容を読み取る。	2	ワークシート (記述の点検)
	漢文編 漢文入門	読む 2時間 読む 2時間	訓読の基本 故事成語 助長	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	4	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
6	現代文編 小説	読む 9時間 書く 2時間	羅生門	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。 ・古典を元にして作られた作品を原作と読み比べ、理解を深める。	11	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
			定期考査			

	6 7	古文編 随筆	読む 2時間	徒然草 丹波に出雲といふ所あり	・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・作品の内容を自分と関連づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・表現の特色に注意しながら、作品の内容を解釈する。	5	ワークシート (記述の点検)
			読む 3時間	方丈記 ゆく河の流れ			ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	9	漢文編 寓話	読む 3時間	寓話 借虎威 朝三暮四	話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考える。	3	ワークシート (記述の点検)
				定期考査			
	10	現代文編 詩歌	読む 5時間 書く 1時間	短歌 詩	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 ・リズムや形式に注意して詩を読み味わい、「ふるさと」に対する作者の心情について考える。	6	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
		古文編 歌物語	読む 5時間	伊勢物語 芥川 東下り	・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 ・表現の特色を踏まえて、作品に込められた意図を考える。	5	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
	11	古文編 日記	読む 5時間	土佐日記	・日記文学の特徴を理解する。 ・和歌の解釈をもとに心情を理解する。	5	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
				定期考査			
	12	漢文編 絶句と律詩	読む 2時間	6編	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	2	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
		現代文編 小説	読む 9時間 書く 2時間	富岳百景	主人公の心情の変化と、富士山や周囲の人々についての描写に注意して、小説を読み味わう。	11	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
	1	古文編 和歌	読む 3時間	古今和歌集 新古今和歌集	和歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	11	ワークシート (記述の点検)

1 2	作り物語	読む 3時間	竹取物語	作り物語に表れた多様な思いを、叙述を基に的確に捉える。		発表の様子 (行動の確認)
	漢文編 史話	読む 2時間	晏子之御 管鮑之交	登場人物の言動を読み取り、史話の面白さを味わう。		
	古文編 軍記物語	読む 3時間	平家物語	軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の描かれ方を読み取る。		
			定期考査			
3	漢文編 思想	読む 2時間	論語	「論語」の注釈を読み、日本での「論語」の受容について知るとともに、漢文を自分で解釈する力を養う。	2	ワークシート (記述の点検)

計 73 時間 (48 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 5時間	B「読むこと」 古典 45 時間	C「読むこと」 近代以降 23 時間
-----------------	----------------	---------------------	-----------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(文法に関する問題集など)

7 担当者からの一言

「言語文化」は古典を通して我が国の文化に対する理解を深めるとともに、社会生活に必要な知識を身につけて、周囲の人たちと関わりながら、自分のものの見方や感じ方を深める授業です。古典と小説との関わりから表現についても学び、自分の文章力を伸ばすこともできるでしょう。読書に親しみながら、言葉の感覚を研ぎ澄ませ、美しい文章を理解する人を目指しましょう！
(担当： 齋藤 丈、臼木 妙子)